

安心して学校で過ごすための居場所としての 校内別室での支援について

不登校児童の状況

対象児童は、学級への集団や人間関係への不安等を理由に、欠席が目立つようになった。昨年度途中から校内別室指導を段階的に開始し、現在も継続して通室している。S Cと保護者が定期的に話し、当該児童の思いを尊重しながら、週2、3日程度通室している。

具体的な取組

○校内別室の利用による心の安定

校内別室利用への不安が軽減するよう、段階的に相談、見学、体験を行い、当該児童が無理なく利用開始ができるように進めた。支援員と穏やかに話す時間を設けることで、支援員との関わりに慣れ、学習に取り組むことができた。校内別室の中で支援員と信頼関係を築き、落ち着いて過ごすことができた。

○学習の場の設定

校内別室を利用する他の児童を気にすることなく学習に集中できるように、校内別室の部屋の中に、仕切りを設置した。学級の学習プリントや制作教材も活用し、学級での学習内容と常につながりがもてるようにした。



○S Cによるカウンセリングの継続

保護者が定期的に、S Cと話し、困り感や支援方法について相談した。また、担任と保護者との面談や、S Cから担任へのフィードバック、臨床心理士による巡回相談も行い、共通理解を図りながら、支援内容の検討を行った。

○学級との関わりの維持

担任が校内別室の部屋に出向き、一緒に学級での学習課題に取り組んだり、指導を行ったりした。また、そこで学年や学級の行事についての説明も行い、当該児童が興味・関心のあるものについて参加しやすくなるようにした。興味をもった学習や行事には、学級に入り、一緒に参加することができた。

成果

メタバース等も利用し、週3日程度校内別室に登校し、落ち着いて過ごすことができた。校内別室で安心して過ごすことで、給食も校内別室利用の児童と一緒に食べることができるようになった。今後の進路等について、S Cと連携を図り相談を行っていく。

課題

引き続き、当該児童に合わせた学習の場を設けることができるよう別室環境の改善を進めていく。